

番号	年月日	種別	地区名	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
1	H27.4.22	市政懇談会 (H27)	花巻中央	秘書政策課 防災危機管理課 都市政策課	中央地区の人口減少対策について	中央地区の現状がまさに人口減がテーマとなっている。18行政区、市のデータにあるとおり花巻町1区のみマンションが建ったため人口増という現状となっており、空き店舗をいかに中央地区で活用できないかということにまず着目したいと思っている。中央地区では小友氏すでに4月に会社を設立し自社経営の活動拠点として行うと聞いている。これを見習って中央地区で今日来ている方々からも、情報を提供してもらおうなどし町内の空き店舗、空家の有効活用していきたい。私の隣の家が空家になっており、なんとか有効活用できないかと考えている。例えば町内の一人暮らしのお年寄りを集めてひとつの家に4・5人住んでもらうなど、家主の協力を得ながら活用していくことも一つの方法ではないかと考える。私はいつも子供たちの声の聞こえる街づくりにしたいと思っている。住民同士がお互いに声を掛け合うことで地域の見守りにもなっていくと考えている。それから防災防犯について市より指導頂いているが、すでに中央地区では18行政区で組織を作って活動しているところもあるが、日中に若い人は仕事に行っているため家にいない人たちが組織の一員になっても役目を果たせないのではないかとというお話もでている。私は町内会には班長を中心にまとまっていこうと呼びかけている。 空き店舗の話になるが、吹張町にマップがあるが活用できていない。これを活かして地域の目玉となる施設を考えていきたい。	家守プロジェクトについては、家守とよばれるまちづくり会社が、家主(不動産オーナー)に代わって出来るだけ初期投資を抑えて小さく始めるためテナントの貼り付け、不動産の運営を行う。利益がでるまでは家主にもある程度我慢していただく部分はあるが、それで上手くいっているようなので、今後具体的な話になったときには始める方と家主との話し合いで進んでいくと思う。 防災については自主防災組織が中心になって取り組んでおり、まだ訓練など体制は出来上がっていない。何度も訓練を行う必要があり、今年は実際の訓練を花巻地区、大迫地区、石鳥谷地区、東和地区でそれぞれ計画している。消防団については中央地区だけではなく周辺地区でも若い人が少なくなり維持については苦慮しており、早急に考えていく必要があると思っている。今後、市の消防本部の維持、強化ということも消防団の方向と合わせて考えていきたい。 まん福については市も対応に苦労している。約7千万円で取得したが、建築の専門家から利用する為には、さらに1億5千万円の費用が必要と聞いており非常に困難である。今年度、外部の専門家から意見を聞くために100万円の予算を計上した。今後、活用化策を外部の意見を聞きながら再度検討していきたい。
2	H27.4.22	市政懇談会 (H27)	花巻中央	商工労政課	空き店舗の活用について	空き店舗を活用した場合に、家賃補助が出るという取り組みがあれば教えていただきたい。	市では、平成16年度から中心市街地の空き店舗を活用した事業者を継続支援しているが、平成26年度には家賃と改装費・広告宣伝費を補助する事業を行った。補助事業終了後に家賃に見合う収益が確保できないため撤退する例が見受けられたため、今年度新たに中心市街地で新規に起業する中小企業者に対し、専門的なノウハウを持つ起業化支援センターのコーディネーターや商工会議所の指導員が事業計画を作る段階から継続して支援することとしており、立上げ時の経費のうち改装費、広告宣伝費を補助する事業を行う。名称はまちなか創業支援事業補助金であり、補助の上限金額は50万で、補助率は2分の1となる。市としても、市内の金融機関と連携し、中小企業者の創業、事業の継続性が保たれ金融機関の融資に耐えられる事業へと誘導していきたい。
3	H27.4.22	市政懇談会 (H27)	花巻中央	都市政策課	空き家対策特別法について	空き家対策特別法について、5月にガイドラインを制定し空き家対策について決めるといったが、どこまで進んでいるのか。また、その判断基準は消防署または市でやるのか。	条例が法律と矛盾するわけにはいかず条例が人の財産権を阻害し勝手に壊すような条項については憲法違反の問題もあり難しい。このことから法律の制定を待つべきだと申してきた。そして、本日、ガイドラインの案が国から示され、今後、国がパブリックコメントを行いながらこのガイドライン案を固めていく。この中でどのような空き家を取り壊し等の対象となる特定空き家に該当するかなどのガイドラインが国から示された。これに基づき早速、どういった場合を想定して行うのか、今後の対応について検討していくことが必要となる。市長がすべて判断するのか、あるいは市長の権限を誰かに委任するのか、消防署だけの判断では難しいと思う。
4	H27.4.22	市政懇談会 (H27)	花巻中央	秘書政策課 都市政策課 商工労政課	人口減少対策について	人口減少が進んでおり、社会的要因でも人口増を考えていく必要があると思う。以前は企業誘致をして工場を建て、その職員を住ませようということがあったかもしれないが、今はそのようなことをしても人口増にはつながらないと思う。人口増につながる手立てを考えているのかお聞きしたい。	花巻市全体を考えた場合に色々な手を打たなくてはならない。企業誘致もやりたいが、企業誘致する場所について花巻はなくなってきており、コンサルタントを雇い新しい工業団地、流通団地の造成について計画策定をおこなっている。売れそうな場所があるが農業振興地域除外手続きのため3年程度後となり、すぐには着手できない。すぐ着手できる場所で売れる可能性が低いところを早めに行うか、または時間をかけて売れそうなところを税金を使って行うのかについては今後検討していきたい。他に、市では、空き家対策にもつながる定住支援の取り組みとして県外から花巻市に移ってくる方に100万円の補助を行うことにした。これは子供連れの方が県外から移る場合は建物の取得に係る諸経費、登記、家財、家具の購入費用も補助可能となっている制度である。また、市内の企業に就職した場合は、本人に25万円、雇用企業については50万円を支給する制度も新たに作った。 空き家バンクについては非常勤の職員を雇い、ホームページに掲載するだけでなく実際に働きかけたり来る人に案内することも考えている。なかなか貸す人がいないため貸した人にも10万円支給するという制度をつくった。総務省の地域おこし協力隊という制度を使い、花巻では今年度から5人を雇用する予定としている。3年間市の非常勤職員として雇用することにしており、東和総合支所には2人、花巻、石鳥谷と、大迫にも1人ずつ配置する。月給は十数万円程度で自動車もつけ、住居が必要な場合は住宅補助もする。4月に東京で2回の採用説明会を行い1回目31人、2回目26人の参加者があり、ぜひ来ていただき町づくりを一緒にやっていただきたい。3年間だが、過去の事例をみると、3年後に定住する人が多いと聞いている。今年度は5人だが成果があれば来年度以降も増やしていくことも考えたい。

5	H27.4.22	市政懇談会 (H27)	花巻中央	都市政策課	空き店舗の活用について①	私は空き店舗を持っているが、なかなか借りてくれる人が決まらず悩んでいる。市役所の担当の方に家賃補助の制度があるので相談したが、豊沢町は該当にならないと説明された。今後お店を誰かに貸したいという場合に、貸店舗の2階が自宅になっているが対象となるのか。	県外在住のUターン、1ターン、Jターン者が購入して、かつ子供を連れてきて、そこに住んで店舗も行う店舗付住宅であれば100万円の対象になるが、一階部分のみ店舗として貸し、2階は自宅とする場合は、今の制度では難しい。
6	H27.4.22	市政懇談会 (H27)	花巻中央	障がい福祉課	空き店舗の活用について②	土地が550坪あり、この土地をどのように活用していくのか考えており、不動産屋からはアパートや介護施設を建てませんかとか色々話がある。花巻地区として介護施設であればどんな施設が欲しいのかということを検討しているが、市からの補助は何かあるのか。	障がいのある子供のデイサービス等をする施設等を造る場合に市で補助をする制度をつくった。例えば空き地についてこの補助を利用してそのような施設を造ることも考えられる。市の障がい福祉課に相談してほしい。
7	H27.4.22	市政懇談会 (H27)	花巻中央	都市政策部 商工労政課	空き店舗のイベント活用について	中心市街地で空き店舗の話の中で、中心になるのはそこでどのような商売を続けてお店を営んでいくのかという話になる。発想として、上町、吹張、鍛冶町から空いている店舗はすべてイベントスペースと考え、一時的にイベントで使いたいという人に対して間口を広げていくことも必要だと思う。もちろんお店として定着しそこに人が来るのが1番良いことだと思うが、ずっと商売にならなくても年間通して街中で何かをやっていればそのうち人が来るのではないかと思う。あとはもう一つ街中の魅力については、中央地区は古い建物が多いが結構壊されてしまい昔の商店街の名残りが少なくなってしまったが、鍛冶町、上町、吹張も結構古い商店街や建物が残っており、見る人が見れば面白いと思う。これをすぐ何かに生かせるということはないかもしれないが面白味の1つとして検討していただきたい。	土沢では、街かど美術館という空き店舗を使った大変素晴らしいイベントを行っており今後続けていきたいと思っている。このようなイベントの動きがあった場合には、市で全面的にサポートする必要があると思っている。古い建物を生かすということ面白いということはその通りであると思う。景観条例を策定して、街並みを統一するというのも一つの考えであるが、そのためには住民の理解が必要であり、市の一存ではできない。
8	H27.4.22	市政懇談会 (H27)	花巻中央	秘書政策課 都市政策課	中心市街地の人口減少について	何かの説明会の時に、市建設部の担当者から市街地に住んでる人口の割合の説明を聞いたが、盛岡市は約7割、北上市は約3割、奥州市と一関市は2割だが、花巻は12%と言われ非常にショックを受けた。旧三町と合併したことも関係あると思うが、中央地区だけが極端に人口が減少していることも関係あるのか。市長の考えを伺いたい。	花巻市は県内のほかの市に比べ中心部の人口が少なくなっている。花巻市の人口は10万人で、盛岡市は30万人だが、盛岡市の中心市街地には20万を超える人が住んでいる。花巻市の中心部は、規模として盛岡市の10分の1くらいである。北上市や奥州市、あるいは一関市と比べても極端に人口密度が低く中心地市街の規模が小さい。花巻中央地区は、昨年度末で人口が3873人となり、花巻市全体に占める人口の割合は4%程度である。なるべく中心市街地が住みやすくなりあまり広げないようにしないと中心市街地の衰退が進むため花巻市全体においてもよくないことだと思う。色々なことを花巻中央地区で検討しているがこれを実行しようとするとなぜ中心市街地だけ、と他の地区の住民からの反発がある。花巻中央地区の方々には、市全体の発展という観点もいれて、中心地区のあり方について一緒になって考えて頂きたいと思う。
9	H27.4.22	市政懇談会 (H27)	花巻中央	商工労政課 都市政策課	上町地区の人口減少対策について	上町の人口減少が非常に進み、特に年配の方が非常に多くなっているが、食品を買う場所がなく非常に住みにくくなっている。そういう状況の中で人口が減るのは当たり前だと思う。例えば図書館のような公共的な建物が出来てほしいと思うがどうか。	市全体でみた場合、他の地域に比べ上町の方々のみが食料品を遠くまで買いに行かなければならないということではない。以前大町に小さいスーパーができたが1年くらいしか続かなかった。買う人が少ないと店も経営が難しくなるので地域の人たちで利用して町の商店を守っていくという意識が地域の人達にとっても大事だと思う。私は中心市街地には核が必要という思いから公共施設などの設置も考えたいがほかの地域の人はずっと利便性のよいところという話になる可能性もある。それも踏まえ、中心市街地及び市民全体の方々との協議を進めていきたい。